

クラウド バックアップ サービスの導入で 迅速な業務継続体制を実現！ 高度化するランサムウェア攻撃への対策も強化



兵庫県川西市に本社を擁する株式会社ダイハツメタルでは、業務継続を実現するために、復旧までを考えに入れたバックアップのあり方を長年模索してきた。トヨタ自動車が定める「オールトヨタ セキュリティ ガイドライン」(以下、ATSG)への対応も求められた中、災害時にクラウド上でシステム稼働可能な Arcserve UDP Cloud Hybrid と出会い、導入を決定した。現在は Arcserve UDP で一次バックアップした基幹システムのデータを、Arcserve UDP Cloud Hybrid に遠隔二次保管している。基幹システムが、クラウド上のインスタントVM* を利用することでいつでも立ち上げられる状況になり、念願だった業務継続性の担保が実現した。これにより、ATSG への対応が進むとともに、ランサムウェア対策の強化も図られている。

製品	Arcserve UDP / Arcserve UDP Cloud Hybrid
目的	BCP 対策 / ランサムウェア対策
課題	<ul style="list-style-type: none">●災害時は復旧サイトの準備が必要で迅速な復旧ができなかった●「オールトヨタ セキュリティ ガイドライン」(ATSG)の対応レベルを上げたい●自然災害や高度化するランサムウェア攻撃への対策が必要だった
成果	<ul style="list-style-type: none">●被災時にクラウド上で基幹システムを起動して業務継続できる迅速な復旧手段を確保●ATSG への対応が進展し、業務継続体制を強化●クラウドへのオフサイト保管でランサムウェア対策も実現
理由	Arcserve UDP Cloud Hybrid の導入により、万が一の時もクラウド上で基幹システムを立ち上げられるようになり、BCP 対策とランサムウェア対策が実現できる

ユーザープロフィール



株式会社ダイハツメタル

<https://www.d-metal.co.jp/>

- 業種: 製造業
- 従業員数: 851名 (2024年6月現在)
- 事業内容: 自動車部品、船用・陸用ディーゼル部品、産業機械・建設機械部品、農業機械部品、工作機械部品の製造



*バックアップ データを参照し仮想マシンとして起動する Arcserve UDP および Arcserve UDP Cloud Hybrid の機能です。リストアを行わず、数分で代替 VM を起動することができます。



▶「オールトヨタ セキュリティ ガイドライン」への対応強化

株式会社ダイハツメタルは、兵庫県川西市に本社を置く、自動車部品や船舶用部品の鋳造と機械加工を専門とするメーカーである。「お客様の声に耳を傾け、ものづくりを通じて豊かな社会の実現に貢献する」を企業理念に掲げ、1967年の創業以来、ダイハツグループの一員として、鋳鉄・アルミ鋳造素形材部門を担い、自動車産業や船舶用内燃機産業を支えてきた。主要取引先にはダイハツ工業株式会社やトヨタ自動車株式会社など大手自動車メーカーが名を連ね、信頼性の高い製品提供が何よりの強みだ。現在では、油圧建機や農機、工作機業界へも裾野を広げ、多岐にわたる顧客ニーズに応えている。

ダイハツグループはトヨタグループの一員でもある。トヨタグループでは、ここ数年、広域自然災害対策はもちろん、サイバー攻撃、特にランサムウェア攻撃への対策にも力を入れ、「オールトヨタ セキュリティ ガイドライン」(ATSG)として、グループ企業に対処すべきガイドラインを示している。また、「自工会/部工会・サイバーセキュリティ ガイドライン」にも準じる必要がある。自工会は一般社団法人 日本自動車工業会、部工会は一般社団法人 日本自動車部品工業会のことで、どちらも自動車業界団体だ。2つのガイドラインが究極的に求めているのは、「万が一の事態が起こっても、生産を止めずにすむような対策を施すこと」、つまり業務継続だ。

そうなると、基幹システムを手厚く保護して業務継続を担保しなければならない。同社の基幹システムは、C# をプログラム言語とする自社開発システムで、資材調達管理、生産実績、出荷管理、勤怠管理など重要な業務システムを実装している。基幹システムのバックアップ運用としては、2018年に Arcserve UDP を導入している。これを兵庫県川西市の本社サーバと出雲工場側に設置したサーバにそれぞれインストールし、本社のバックアップ データを出雲工場に転送し遠隔地保管を行っていた。他にストレージの機能によるバックアップ(日次)、データ カートリッジへの手動バックアップ(月次)、仮想環境のクローン取得(年次)も行っていた。

ただ業務継続という観点では、万が一の場合にただちに復旧できるかどうかポイントとなる。本社のサーバ室が被災したとすると、アプリケーションやデータは出雲工場から取り戻せても、新たなサーバを調達し、そこへインストールしなおすという復旧サイトの構築が必要になり、どうしても時間がかかる。同社では、Arcserve UDP を導入する際に大手パブリック クラウドへのバックアップも検討した。しかし、データ中心のバックアップでは、復旧にかかる時間、またデータ転送料というコストもネックとなり、この時は断念した。バックアップそのものは充実しているが、リカバリの考慮が十分ではなかった。

▶クラウドでシステム稼働できる Arcserve UDP Cloud Hybrid 導入を即決



株式会社ダイハツメタル
総務部 情報システム室 係長
宮島 雅司 氏

モヤモヤした思いを解消できないでいた同社 総務部 情報システム室を、2022年10月、Arcserve Japan の営業担当者が訪ねた。そこで紹介したのが、Arcserve UDP Cloud Hybrid だった。これは、データ保護と災害復旧を目的としたクラウド ベースのサービスだ。オンプレミス (Arcserve UDP) で取得したバックアップデータをクラウドに転送してバックアップの二重化を行うことができ、災害発生時には、クラウド上の代替仮想マシンとしてシステムを起動し、事業の継続性を保つことができる。ノード間で重複排除機能が利用可能で、これが WAN 越しのネットワーク性能を向上させるため、効率的にデータを遠隔地に転送できる。また、データ転送時に TLS、保管時には AES256 で暗号化されており、強力なデータ セキュリティも担保されている。株式会社ダイハツメタル 総務部



情報システム室 係長 宮島 雅司氏は次のように語る。

「遠隔地保管については、これまでいろいろ検討を重ね、大手パブリッククラウドも検討してきました。しかし、パブリッククラウドはバックアップを取るだけになってしまいます。いざ復旧するとなったらどこに戻したらいいか。自然災害の場合はサーバの調達から考えなければいけないため、話がなかなか前へ進みませんでした。

そこへ、Arcserve から Arcserve UDP Cloud Hybrid の提案がありました。『クラウド上にインスタントVMを立てて、そこにシステムを復元できて動かします。そして、Arcserve UDP Cloud Hybrid 上で業務継続しつつ、時間を稼ぎながら転送料無料でデータをダウンロードし、オンプレミスシステムを元どおり再構築できます』という提案をもらって、『これだ!』となりました。それまではオンプレミスに復旧することを前提とした遠隔地保管を検討しており、クラウドに復旧するという発想がなかったため、目からウロコでした。

当社は、安価で優れた製品やサービスは、市場で評価される前でも積極的に採り入れていく、アーリーアダプターでありたいと考えています。提案を聞き、Arcserve UDP Cloud Hybrid は私たちの課題を解決できる優れた製品だということがわかりましたので、すぐ導入を検討し始めました」

情報システム室はただちに経営層に上申。ATSG への対応は、同社にとって重要な経営テーマであったこともあり、迅速に承認され、2022年11月には導入が決定した。



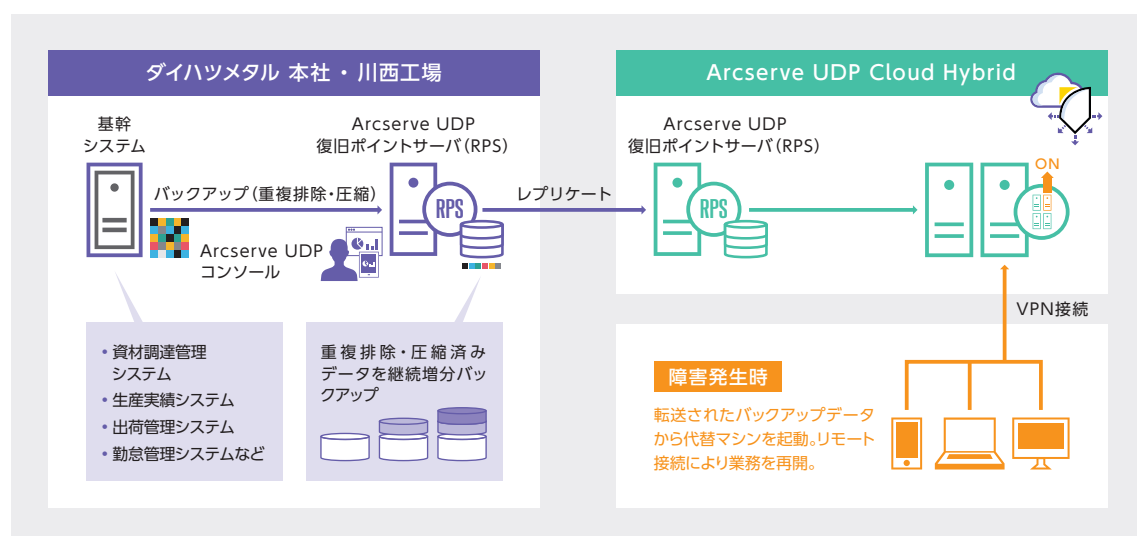
株式会社ダイハツメタル
総務部 情報システム室 副主任

小出 祐也 氏

▶ インスタントVM を利用した業務システム立ち上げを確認

今回、同社が選んだのは「Arcserve UDP Cloud Hybrid - Storage」と「Arcserve UDP Cloud Hybrid - Compute」だ。Arcserve UDP Cloud Hybrid は、1TB 単位でストレージを追加拡張できるのでバックアップ容量にあわせて無駄のない運用ができるのも特長だ。同社の基幹システムのバックアップ運用は次のようになる。

ダイハツメタルのバックアップ システム構成概要





まずデータベースを含めて、基幹システムを Arcserve UDP でバックアップする。このとき重複排除・圧縮機能により容量が小さくなったデータが継続増分バックアップされる。そして Arcserve UDP Cloud Hybrid のクラウドへ転送されオフサイト保管される。本社・川西工場のオンプレミスのバックアップサーバと Arcserve UDP Cloud Hybrid の間にエアギャップを設けることで、ランサムウェア対策としても効果的だ。バックアップ スケジュールは完全に自動化されており、3時間ですべての工程が完了する。情報システム室では、Arcserve UDP Cloud Hybrid 上のインスタントVM で基幹システムが立ち上がり、手元の PC でデータが参照できることが確認されている。

▶「ATSG」への対応が進展し、ランサムウェア対策強化を実現

宮島氏は、導入によって実感した効果を次のように語る。

「長年検討し続けていたリカバリ先を考慮したバックアップがついに実現しました。毎年12月に親会社であるダイハツ工業に ATSG への対応状況を報告するのですが、Arcserve UDP Cloud Hybrid の導入により、今年は胸を張って ATSG に対応した業務継続を担保できたと報告できます。また、ランサムウェア対策として、社内から隔離されたクラウド領域に基幹システムおよびそのデータが持てたことにも安堵しています」

同室 副主任 小出 祐也氏も、「万が一ランサムウェア攻撃などで本社サーバが止まってしまったとしても、生産が継続できる体制が整ったことが何よりです。インスタントVM で基幹システムを起動した状態を“つなぎ”として活用し、その間に復旧用のサーバを準備してデータを戻すことができます」と導入に手応えを感じている。

小出氏は、Arcserve UDP Cloud Hybrid の使い勝手のよさについても語った。

「これは Arcserve UDP の延長線にあるサービスという感じで、UI も同じなので使いやすいです。クラウドにアクセスする必要のある社員向けに、研修会も必要ないぐらい力を入れて操作手順書を作成し、これを配布して万が一に備えています」

今後、同社では、ファイルサーバに格納されている製造に関する重要なファイルも、Arcserve UDP Cloud Hybrid へのバックアップ対象とすることになっており、現在、その精査が行われている。復旧まできちんと想定できてこそ業務継続と考えてきたダイハツメタル。同社が選んだクラウドバックアップは、Arcserve UDP Cloud Hybrid だった。



(左から)
株式会社ダイハツメタル 総務部 情報システム室
副主任 小出 祐也氏、係長 宮島 雅司氏、末次 寛氏

arcserve®

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。
製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
Copyright ©2024 Arcserve (USA), LLC. All right reserved.

Arcserve Japan

お問い合わせ

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング
Arcserve ジャパン ダイレクト 0120-410-116 (平日 9:00~17:30)
JapanDirect@arcserve.com

Arcserve.com/jp

検索

WEBサイト: www.arcserve.com/jp
※記載事項は変更になる場合がございます。2024年11月現在